

牧師室から (2020.8.23)

前回は望遠鏡で見た宇宙の話、マクロの世界について語ったので、今回は顕微鏡で見るミクロの世界について話してみたい。

この時期になると愛犬アイネは、防虫剤を付けているにもかかわらず、大好きな草むらでよく虫に刺される。その際私は彼女の体についたノミやマダニを顕微鏡で見ることがある。この間痒そうにしていたところに瘡蓋があったので取り出してみた。すると今回、虫はいなかった。少し残念な気持ちを妻に言ったら怒られた。そこで瘡蓋についてきた毛を見てみると、キューティクルが少し見えた。17世紀にオランダのレーウエンフックが顕微鏡を発明して、神様が造られた微小の世界を恐る恐る覗き込んだ気持ちが伝わってくる。彼は同時期同郷の画家フェルメールが友人だった。彼らはお互いに光と視覚について、感化を及ぼし合っていたに違いない。

とにかくスケールから言っても、人間は、肉眼で見えないミクロな世界と広大な宇宙との中間的な世界に生きているということを再確認した。自身の感覚では直接感知できないものを知ろうとする人間の探究心というか、欲望が、自分の内から込み上げてくるのも感じた。

(鈴木淳一牧師)